京都府立大学 京都地域未来創造センター KIRP (Kyoto Institute for Regional Prospects)

Kyoto Institute for Regional Prospects
KIRP
Kyoto Prefectural University

NEWS LETTER

June 2024
NO.35

NEWS

2024年度 京都府立大学地域貢献型特別研究（府大ACTR）決定！

- 本学では、京都府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的として、2004年度から**地域貢献型特別研究（府大 ACTR）**に取り組んでいます。
- 今年度は、府内の市町等から56件の提案に対し、本学研究者から28件の研究計画書の応募があり、審査の結果、**18件の研究が採択**されました。
- 今後は各地域での調査研究が始まります。 研究の進捗は、センターのウェブサイトでも随時、報告する予定です。

府大ACTRとは？
ACTRは、Academic Contribution To Regionの略で、「地域に貢献する学術研究」を意味します。京都府内の市町村、府内に立地する企業、NPO等から寄せられた地域課題の提案に基づき、本学教員とマッチングが成立した研究に対して、学内外の審査員による審査会を経て決定しています。

（文）文学部 （公）公共政策学部 （生）生命環境科学研究科

研究課題	代表者		主な活動地域
文化遺産の記録化・記憶化による地域未来の創出に関する実践的研究	諫早 直人	准教授（文）	京丹後市
戦争の記憶の記録化と次世代への継承の仕組み構築	上杉 和央	准教授（文）	京丹後市、舞鶴市、南丹市、長岡京市、京田辺市
京都府北部の MALUI・高大連携による文化資源を生かした地域づくり	東 昇	教授（文）	京丹後市、伊根町、舞鶴市、福知山市、京都市
学校・地域連携にもとづく夜久野地域の文化遺産の活用研究	菱田 哲郎	教授（文）	福知山市
文化庁連携による地域歴史文化の次世代継承と地域振興 ー綾部市君尾山光明寺の文化遺産をモデルとしてー	横内 裕人	教授（文）	綾部市
城陽長池宿を中心とする山城地方旧宿場町の観光資源化に関する文理融合的研究	山口 美知代	教授（文）	城陽市
京都市南部近郊都市（宇治市）における空家のデータサイエンス分析と今後の発生予防と利活用方策（その2）	岩松 義秀	客員准教授（公）	宇治市
府内自治体の脱炭素化を加速するための調査研究 ー宇治市、福知山市、久御山町を対象としてー	森下 正修	教授（公）	福知山市、宇治市、久御山町
スマート農業を利用した省力、低コスト鳥獣害軽減方法の実証的研究	板井 章浩	教授（生）	京田辺市、京都府全域
京都在来ブドウ品種‘聚楽’復活栽培に向けた課題解決と京果樹ブランドの新展開	板井 章浩	教授（生）	京都府全域
宇治茶を代表する抹茶原料の副産物である茎を活用した細菌感染の予防法について	岡 真優子	准教授（生）	京都府全域
地域森林資源サプライチェーン京都モデルの構築に向けた実証研究	神代 圭輔	准教授（生）	京丹波町、南丹市、京都府全域
洛いもの褐変現象を利用した新規機能性野菜・食品の開発	伊達 修一	講師（生）	精華町
昆虫の養殖飼料化を基盤とする新たな養鶏システムの確立 ー京都府基幹産業が抱える課題の包括的解決に向けた取り組みー	田中 俊一	准教授（生）	京都府全域
城陽市の湧水花卉生産現場における土壌伝染性病害の疫学調査および新規防除手段の開発	辻 元人	講師（生）	城陽市
大江山連峰の地質と地形を生かした自然循環農業の町づくり	中尾 淳	准教授（生）	与謝野町
環境・歴史・観光・伝統産業都市京都を守り広めるための竹林整備と竹林材の認証制度制定によるブランド化	古田 裕三	教授（生）	京都府全域
京都府産宇治茶の安定生産に貢献する生育予測研究	森田 重人	准教授（生）	宇治市

NEWS

京都地域未来創造センター（KIRP）新体制の紹介

センター長　岩﨑 雅史　生命環境科学研究科 准教授

主なプロフィールはこちら▼

私が地域研究に初めて挑戦させていただいたのは 2018 年春のこと。ACTR（京都府立大学地域貢献型特別研究）の応募に際して、社会科学の門外漢である私などが手を挙げると迷惑では？と随分葛藤した記憶が今でも鮮明に思い出されます。そのような勇気を振り絞っての一歩から早や6年。歴代の KIRP（京都地域未来創造センター）メンバーをはじめ、市町村職員の方々や地域の皆様からは数え切れないほどの心温まるご支援をいただき、思いがけず 9 件もの地域研究に関わらせていただきました。

打ち寄せる波が海岸線を変化させるが如く、世界的な変革が地域にまで多様な変容をもたらす現在社会。そのような中で、これまで以上に KIRP に求められるのは、地域課題がもつ多様性の 1 つ 1 つに対して柔軟かつ誠実に向き合う姿勢です。地域における学術成果の社会実装は全国的な重点課題の 1 つでもあるため、学術面においても KIRP が果たすべき役割は今後大きくなると感じています。個人の立場ではひき続き地域課題に挑むフィールドプレイヤーとして、センター長の立場では地域と大学の架け橋となって双方の発展を下支えするマネージャーとして努めて参ります。

副センター長　上杉 和央　文学部 准教授

主なプロフィールはこちら▼

今年度、京都府立大学は学部体制が大きく変わり、新しい姿「シン・府立大」（！）となりました。時を同じくして、KIRP でも岩崎センター長の就任をはじめ、メンバー交代に伴う変化がありました。「シン・府立大」において、「シン・KIRP」はどのような役割を担っていくことができるでしょうか。公立大学において、地域貢献は重要な位置を占めることは間違いありません。そうであれば、考えるべきはどのような地域貢献が府立大らしく、また KIRP らしいのか、といった点なのでしょう。社会の変化とともにこうした点は刻々と変化していくものであり、従来の形で満足する姿勢ではダメかもしれません。これまでの活動の核「心」を忘れずに、革「新」的な気持ちも持ちつつ、「シン・KIRP」の運営に参加したいと思います。

企画調整マネージャー　岩松 義秀　公共政策学部客員准教授

主なプロフィールはこちら▼

私たちを取り巻く社会経済情勢は、少子高齢化・人口減少をはじめ、未曾有の災害、新型コロナウィルス、国際的な紛争など、先を見通すことが難しい状況にあります。そのような中で、地域は重要な役割を担っていると考えますが、地域が持つ課題も多種多様にあり、これらを解決していく必要があります。その一つとして、大学における研究の成果を地域に還元することによって、地域課題を紐解いていくことができないか、また、大学と地域が連携し、創発を行うことによって、地域にイノベーションを起こし、地域経済の発展に繋げることができればと考えています。新体制においては、研究分野や専門領域の異なる研究者、コーディネーター、研究員が、英知を絞り、例えば異なる研究を組み合わせるような学際的な視点を持って、大学と地域が連携・創発することによって、地域のイノベーションを導いていきたいと考えています。

地域とのつながりを私たちがサポートします

- 2024 年度京都地域未来創造センター（KIRP）　組織体制

コーディネーター（非常勤）：**鈴木 暁子**
市町村研修生：**原田 成至**（京田辺市派遣）
市町村研修生：**中村 真莉子**（精華町派遣）
事務補助職員：**村上 央子**

KIRPの活動についての詳細はホームページをご覧下さい。